

第4回上田市総合教育会議(平成28年3月10日)議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

皆さんお疲れさまでございます。今年度から始まりました総合教育会議、第4回目ということでございまして、これまで協議を進めてまいりました大綱、そして第2期の上田市教育支援プランをまとめていきたい、このように思っております。まずは教育大綱、教育支援プランともにパブリックコメントの受付を行っております、寄せられた市民の意見を充分参考にしながら、また教育支援プランにおきましては、学校現場の意見も反映をさせながら策定したいと考えております。

いずれにしても新年度からスタートする重要な方針かつプランであるということでございます。子ども達のより良い教育のため、そしてあらゆる世代にとっての生涯学習の向上、さらにはスポーツと文化芸術の振興、こういったものに向けて皆さんの思い、考え方を共有しながら新たなスタートを新年度からスタートを切ってまいりたいと考えております。

ところで、去る数日前の新聞報道でなされていましたが、私がこれまで考えていたことと同じ主張があったので紹介したいと思います。それは一言で言うと「文化とスポーツの融合」ということでございます。報道によりますと、文化庁、スポーツ庁、そして観光庁、この3庁が包括連携協定を結びながら、全国で100か所これからそういったものを地域指定するというような内容でございました。スポーツ庁鈴木長官の言によれば、「文化とスポーツの融合」を図っていきたいということでございましたので、我が意を得たりという思いでおります。この地域の特徴、特色を生かしてそして連携を図っていくということは、上田市にとっては大変重要な視点だと、かねがねこのように思っておりますので、一つのこれからの事業に結びつけていきたいと、そんなことも考えております。

本年度この総合教育会議で掲げました今後の政策課題につきましては、新年度改めて協議し、また実行に移してまいりたいとこのように思っております。今後、教育委員会また市長部局、一層連携の中で市民に見える形で取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きの協力をお願い申し上げ、私からのあいさつといたします。

3 小林教育長あいさつ

本日は第4回目の総合教育会議でございます。市議会の本会議でも市長の思いを親しくお聞きする大変意義のある会をもてたこと、また、教育委員会における意見交換や協議の活性化という大きな効果をいただいたことを答弁させていただいたところでございますが、今まで上田市また教育委員会が積み上げてきたその上に、新しい制度が順調にスタートできたことを、大変嬉しく思っているところでございます。本日はいよいよ教育大綱また、それを受けまして教育支援プランの協議ということでございます。教育支援プランにおきましては、サント輝くふるさと上田の未来に向けまし

て確かな学力の定着、向上、ますますグローバル化する社会への対応、また、ふるさと上田を大切にしたい教育、こういったようなものを非常に重要な観点だと考えているところがございます。今後5か年の教育の成果が教育委員会としても、目に見える形で示していければ、こう考えております。

貴重な機会でございますので様々な御指摘をいただければと思っているところでございます。よろしくお願いいたします。

4 会議事項

(1) 上田市教育大綱の策定について

翠川政策企画課長 資料1、資料1-1 説明

金子政策企画部長

説明について、皆様からご意見をいただきたいと思っております。

資料1-1の3ページ目、上田市教育の基本理念を、これまでの意見を踏まえ「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」として「燦と」をカタカナから漢字表記にしました。この関係から表紙の部分と2ページの部分も同様に「燦と」に変更しています。これらについて意見を申し上げます。

寺島教育委員

燦という字が漢字になって、我々の世代から見ると意味が分かりますけど、少し難しい字でどうかなとは思いますが、従前のカタカナよりも私はこちらの漢字のほうが好ましいと思っておりますので、この修正案でよろしいかと思っております。

城下教育委員

「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」とても素敵なビジョンになったと、原案出していた北澤委員さんに感謝しつつ、また燦というこの漢字がつくことで先ほど寺島委員さんは難しいとおっしゃいましたが、確かに書けないほど難しい漢字ですが、とても素敵な響けですし意味合いも素敵だなと思っております。

燦々という意味を調べましたら二つ良い言葉が載っていました。一つ目は「陽の光があたって暖かい様」読んだとき暖かく素敵な言葉だなと、単なる温度的な暖かさじゃなくて心がほっと温くなるやさしさを持って暖くなる。そういう暖かい様を表す燦々なんだなというところに感動しました。二つ目の意味合いは「強く光り輝く様」というのも燦々なんですね。これも大事な言葉だなと思っております。強く光る。ポワッと光るのではなくて強く光る。上田市としては強くしっかりと人づくりを進めていくんだという意気込みも含まれている気がして、ここにサントの燦が漢字になったのが素晴らしいことだと思っております。

このキャッチフレーズの文言に酔いしれてははいけませんので、この後にある支援プランでも着実な進歩がなければいけないなと思っております。素敵なビジョンだと思っております。

北沢教育委員

一つの案とすればこれで意味が通るので良いと思っておりますけど、ただ「燦と」というのは本来「燦々と」という意味だと私は思います。国語的に見てどうかとは思っております。

私はやはり「燦と」というのはカタカナのほうが良いと思います。「燦と輝く上田」っていうと上田市のことが規定されるわけですね。漢字だと意味が限定されてくると思います。カタカナのサントだとやはり普通の方が聞くと意味不明の言葉なんですね。私はそこに思いられた思いという、もとの文章はカタカナのサントにしておいて、むしろ基本理念に込める思いのほうをもっと丁寧に書いたほうが私は意味が通じるのではないかと思います。

総合計画のところにある文言を使って、例えば「人笑顔あふれ未来燦々と輝く上田市」のその燦々との燦とをとってきましたよとか。例えば「愛着と誇り蚕都の歴史上田市」のその蚕都をとってきましたよとか。それから、「自然豊かで青空広がるSUN都上田市」。そこから取って来ましたよっていうその「燦々と」の「燦と」と、蚕の都の「蚕都」と太陽の「SUN都」、そこからサントを取って来ましたという風に意味を広く捉える。そのカタカナのサントのほうが私は上田らしい個性的な、意味合いが出るのではないかと思います。さらに文章を続けて、人と人との絆を大切に紡ぐという文章で補って基本理念に込める思いを、むしろそのところで文章を丁寧に書いて深める方が良いでしょう。カタカナでのサントのほうが私はイメージが広がるんじゃないかなと思います。ですから基本理念に込める思いを丁寧に書いていくというのが私の意見です。

山崎教育委員

前はサント上田の未来を紡ぐ人づくりということだったと思います。このフレーズがとても覚えやすく耳に入ってきてやすいというのはとてもあって、今回修正で「燦と輝く上田」となりました。明るい感じの意味合いになったんですけど、「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」になってしまうと、前に感じたフレーズとして耳なじみが良かったものが、ちょっと長めになってしまって、スツとなかなか入って来づらいというのが第一印象でありました。

それと「燦と」という漢字を使ったのと輝くというのは非常に意味合い的に良く似ているかなと。「燦」燦々と輝くという意味なんですけど、要するに「燦」というこの字を使うのであれば輝くということも意味合いとして入っているのではないかなと思いますので、前回のものを生かしてサントと上田の未来を紡ぐ上田の人づくりで良いのではないかなとも思いました。

「燦と」というところにこの字を、きっとご苦労されて持ってきたのかなとは思いますが、北沢委員が言ったように、カタカナのサントですとサントミュージアムがどうしてもイメージとしてできてしまうので、私もどちらがいいのか自分の中で決めかねているんですけど、ここに燦とという漢字を持ってきて、「さんと」とふりがなをするのであれば、その下に書いてある基本理念のところの上田市の蚕の都、ここにもサントとふりがなをふっていただいたほうがより思いが伝わるのではないかと思います。

金子部長政策企画部長

ここで確認をしたいのですが、「燦と」は漢字のほうが良いというご意見ですか。

山崎教育委員

ちょっと決めかねていますが、この中の基本理念に込める思い等を読み込むと、

燦々と輝いている上田の状況を表すにはこの字はとても良い字だなとは思いますが。

小林教育長

私も世代的には漢字のほうがピタっとくると考えていたんです。なんか「燦と」というのがカタカナというのがイメージがつかめなくて。燦は漢字のほうが良いんじゃないかなと個人的には思っていますが、輝くについては今、山崎委員さんと同じような思いを持っていたんですよね。だから、燦と上田の未来を紡ぐ人づくりというのは言ってみれば古い七五調のリズムを持っているから非常に言いやすいと。

ただ、私も考えてみたんですけど、「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」という三拍子のリズムという感じもないことはないかなと。そちらのほうがリズムとすれば新しいリズムで、それも良いかなと思っはおりますのでどちらというのは決め難いんですけど。リズムとすればどちらもありかなというふうには思っています。

母袋市長

もともと燦々というのは上田市で時々使っていた言葉です。しかも漢字で使っていた。今カタカナか漢字の話があって、カタカナの場合は結局複数の意味合いに捉えながらもということですね。漢字はやはり光輝くという意味合いが強いものだと受け止めていますので、非常に文字としては素晴らしい文字。分からないから平仮名をふる。これはこれで私も良いと思います。もう一つは、輝くと燦が意味合いは同じだということのこのところも確かにそうですよね。そうなんです、サント上田の響きが良いのかな。でも輝くと言ったほうが意味は良く分かるんですよ。意味合いがダブっていても私は思います。従って、私は一つは燦は漢字で良いと思いますが、輝くを入れるか入れないかはちょっと分からない。だから表題はなるべくシンプルにするという形の中で言うならば、輝くを取りながら後ろの理念の中でうたい込む、こういう方法がやっぱり合うと思いますね。だから漢字を使っても複数の意味合いもあるんだよということも説明すれば良いのではないかな。こんな思いを持ちます。

金子部長政策企画部長

それぞれ、御意見賜りましたが、意見が割れています。皆さんいかがですか。

大きな違いは、燦の字をカタカナにするか漢字にするかという点。

それと輝くを入れるか入れないかというこの二点です。御意見いかがですか。

寺島教育委員

漢字を使うのは先ほどから言われたように燦々と輝くが同意義ですけど、未来志向のイメージが出て、カタカナを入れてしまうと漢字の意味合いが出てこないの、私は漢字のほうが未来へ繋がっていくのでこのほうが良いと思います。輝くという言葉はなくてもわかるんですけど、やっぱりここであえて輝くと言ったほうが意味、未来志向へ繋がっている。サント上田のとなってしまうとサンが耳に入ってくる時はサント上田でいいですけど、字を見たときにやっぱり輝くとあったほうが表現が上手く出来ているだろうなど。字を見たときに私は少し長くなりますけど原案の燦と輝くと私は使う必要があると思います。

北沢教育委員

私は、先ほど言ったサントという意味を下の理念に込める思いのところ、やはりきちんと明文化していただくことが、いろいろな意味のサントというのは、ただ燦々と輝くという上田市のイメージだけでなく、もっといろいろな意味があるんですよ。歴史も伝統もある上田市なんです。晴天率が高くて青空が広がるそういう自然豊かで明るいイメージがあるんですよ、というものを基本理念に込める思いのところ、丁寧に書いていただければそれで私は良いかなと。

金子部長政策企画部長

輝くはいかがですか？ 燦と輝く。

北沢教育委員

そうですね、漢字使ってそういうふうにした場合には輝くはあっても良いと思います。

小林教育長

私も意味をはっきりさせるにはそのほうが良いと思いますし、リズムが新しいリズムという感じを私は持っていますので、輝くで結構だと思います。

城下教育委員

先ほど私も申しましたけれど、この漢字が持つ意味というのは素敵なものがありますし、最初のカタカナでサント上田よりはいろいろくつついたという感じはあったんですけども、何度も何度も繰り返し言うと自分の中で馴染んできています。

山崎教育委員

燦と輝く上田というところを見ると輝くというのを入れてもいいかなと思うんですけど、「燦と」という言葉に重きを置くといろいろな意味があるという事を踏まえると、輝くを入れると邪魔になるかなと思ったんですね。私の希望とすれば、燦と輝く上田でも良いんですが、込める思いの中の蚕の都のところにサントという言葉が平仮名で入れると、誰が読んでもサントということもきちんと読めるのではないかなと思います。

金子部長政策企画部長

みなさんから御意見をいただき、「燦と輝く」と漢字で輝くを入れて表現させていただきます。基本的理念の思いのサントと、山崎委員の発言のように蚕の都のサント、あるいはさんさんと輝く太陽のサント、それと自然豊かな晴天率の高いサント、その部分をしっかり書き込ませていただき、サントに込める意味をもう少し広げさせていただくということで、事務局で若干修正させていただくということをご了解いただければと思いますがいかがでしょうか。

委員了承

はい、結構です。

金子部長政策企画部長

ありがとうございます。それではそのように事務局で修正させていただきます。
修正案は、皆さんにお示しをいたしますのでよろしくをお願いします。

それでは大綱につきましては今の部分の表題が変わりますから、この部分先ほど申しあげた一番初めの表題と2、3ページ分、御意見いただきませんでした。人づくりの中の学校教育に一つだけ育むというふうにさせていただいている部分ありますけど、この部分を育むでございだけますでしょうか。

委員了承

はい、結構です。

金子部長政策企画部長

ありがとうございます。

それではこれで大綱を決定します。ありがとうございます。

(2) 第2期上田市教育支援プランの策定について

西入教育次長 資料2-1、資料2-2 説明

金子部長政策企画部長

教育支援プランの説明をいただきました。ご意見をお願いします。

北沢教育委員

支援策が明確に示され、良いと思うところは二つあります。一つは他の部局との連携ということがきちっと明記されていることが大変良いかなと思います。もう一つは、施策の展開していくうえでPDCAのサイクルが非常に大事だと思うんですね。PDCAのCのところのそこに値するのが測定指標の項目だと思うんですね。そういうことがきちっと明記されていて、しかも5年後の目標がきちんと書かれている。ただ、その目標がすべて数値で表記することは非常に疑問なんですけれど、項目によってその目標が数値で表されているところと、項目によって文言、文章で表されているところがきちっと別れていて、そこは大変良いかと思えます。

質問が一つあります。5年後の目標値や目標は書かれていますが5年間の中間方向的なものはどのように公開されるのでしょうか。

西入教育次長

これは最初の検証のところで書いてございますけど、毎年点検評価を行うということです。その結果については、これまでも行政評価懇話会の中で評価していただきました。

今後はこの支援プランを中心に評価をいただいて検証していくということを考えています。当然、議会にも提出しながらホームページなどにより公表してまいります。

城下教育委員

18 ページ目。いじめ不登校のところですが、小中学校における不登校児童生徒の在籍率の現状と平成 32 年度の目標数値が記載されていますが、全国の数値との比較ではどうですか。

倉島教育総務課長

去年の段階では全国平均、県の平均も下回っております。具体的な数値は、後程調べて申し上げます。

城下教育委員

支援プランが大きく変わったのはやはり数値をしっかりと表しているというのが今までの支援プランとは違うと思います。ここが良い方向に変わったなというところがあります。

教育は数値では測れないところが多いでしょうけれど、やはりしっかりと特定できる部分はしっかりと検証した上で次に進む、次の舵を取るというのがとても大切だと思いますので、文言でしっかりと把握していくところも大事ですけど測定数値で表せるところはしっかりと追っていくべきと考えます。

支援プランは市民の皆さんとの約束ですので、しっかりとここで決め込んで尚且つ、毎年の評価もそうですが、きちんと P C C A サイクルをまわして確実に積み上げていくということが大事ではないかと思えます。教育委員は 10・20 年先の継続性というものをも求められても無理があるかもしれませんが、支援プランを決めていくときに前回の協議会でも委員一人ひとりが真剣に上田の教育の未来を考えて、真剣に協議してきたうえでの支援プランですので確実に一步一步積み上げていくというプランが継続されることを私たちもきちっとやっていかなければいけないと思います。数値目標をしっかりとかけるということは前回と大きく変わったことですので、着実に実のあるプランになっているような気がしますけど、しっかりと進めていきたいと思っています。

金子部長政策企画部長

事務局は、後ほど不登校児の在籍率の数字はお示しをください。全国と県の数値をお願いします。

山崎教育委員

今、城下委員がお話いただきましたように非常にどこに向かって進んでいけば良いプランなのかというのが非常にわかりやすくなったかなと思います。市民の皆様にどんなことをしているのか、何を目的にやっているのかということがきちんとわかるということが非常に良いことだと思いますけど、数値を一番の目標にするのではなくてそこにいくまでの過程をととても大事にしていくべきだと思っています。やはり支援プランという名前がついていますので、誰が誰のためにする支援なのかということを見失わないように、全ての年齢の子ども達に支援がきちんきちんといくように偏りが無いように、やはり生まれてから社会に出るまでの子ども達が充実した支援を受けられるような、そんな支援プランになっていかなければいけないかなと思っています。

今回の支援プランは、かなりコンパクトにまとまっておりますし、わかりやすくな

っています。私たちだけではなくて市民の方、お子さんを持っていらっしゃる親御さん始め多くの方にこういう事をしているんだということをもっとわかりやすく説明を広報していくべきだと思っています。

城下教育委員

前回の支援プランも、定例会のときにもダイジェスト版を作ってPTAの保護者の方にお配りしたらどうですかという意見を出したことがありましたけれど、その時の答えというわけではないですけど、学校のプランをしっかりと学校ごと周知しているので、またこれも併せてとなるとだからどの課という意見もあったんですね。そのままこうしようという結論がないままそこはそこで最後はうやむやになってしまったんですけど。

私も最初のように感じたように、市としてはこうなんですよというものは、なかなかボリュームあるまま保護者の方にボンと渡されても、なかなか入らなかつたりするのでダイジェスト版を作ってお配りするのとは手じゃないかなと思います。

小林教育長

これは公にするものですから保護者のみなさんには当然わかってもらわなければいけないと思っていますのでホームページを活用するとか様々な方法があると思いますので、なるほどこういう事を考えているんだという事は、とにかく保護者の皆さんにもわかるような形でもっていくのが良いだろうと思っています。

寺島教育委員

性格上どうしても総花的になるのはやむをえないところはあるんですけど、前回の支援プランに比べて一つは総合計画、先ほど策定協議されました上田市教育大綱との位置付けも明確になりました。取り組み事項はたくさんありますけど、その中でも三つの基本目標ということで大きなイメージをしてある。全体としてコンパクトになったというところでは評価できるかなと思います。ただ私個人とすれば、教育という分野であまり数値目標というのを入れ過ぎてしまうと、ちょっと揃わない部分があるので、この辺を実際の運用面でどうしていくか、数値を追っていくとその数値は本当に正しいのか、となってしまうと誰も現状よりも向上したいということで数値はすべて維持じゃなくて、全部上に向かっていくんですよ。

本当に出来るかどうかなんてそれは出来なかったなんてときに、そこだけ追求されたりすると歪んだものになってしまう可能性があるんで、特にいわゆる一般産業界や経済界の中では数値目標をつけてやっているんですけど、教育という面では数値は場合によってはそぐわないものがあるのでその辺を配慮しなければならない。従って5年先の目標があがってますけど、やはりこれは1年ごとに項目によっては見直しながら、数値が出るものは場合によっては文言的な目標に切り替えていくとか、あるいは逆だつたりとかを、柔軟に対応する必要があると考えています。そうした配慮が必要だと思っています。

金子部長政策企画部長

ただいまの意見、教育委員会いかがですか。

西入教育次長

これは今回のプランを創るうえで一番当初から考えていたところです。目的化するということは避けなければならないことは当然承知しています。その上で各学校がこれをどうやって捉えていくか、P D C Aの中での結果として数字が出るんだということをよく周知をして理解していただき執行していきたいと思っています。

母袋市長

総括的にお話します。まず第一期支援プランにおいては県下に先んじてという部分やら、初めて今回のような総合教育プラン的な法的な裏づけもない中で試行錯誤的にやったということで、一定の成果は上がったと思う中で今回の第2期については幅広い視点で盛り込まれた良く出来つつある総合支援プランだなと感じております。

中でも関心を持っているのは「小中高大連携」という特に大学は、ある資源というものを利活用して小中高と連携を図ったり、中高というのはやはり大きなポイントだと思いますのでこれまで以上の行動をしながら成果を上げていくということ。学力的な話になると、やはり伸びる子はどんどん伸びてほしいわけで、全体的な学力向上の一方で、支援の必要な児童生徒への配慮もかなりなされているなどこの様に思います。

とりわけ特別支援学級へのタブレットも県下に先んじて、メーカーが上田にあるというこの利も一定程度あると思いますし、成果があがっているという先般の報道もあり、私も小学校に訪問して強く感じていますので、そういったものはより強く出して、支援の必要な子へ学習の興味が沸いてくるツールを使って伸ばせるんだとこういうことの自信付けをしてもらいたいと思っています。もう一つは、新たに導入されていく成果としての英語、そして特別教科としての道徳です。これもやはり大事な視点です。国際化の一方で心の豊かさ、あるいは躰、こういうものを含めると両方とも大切な視点ですのでこの辺についてもしっかりと目標に向けて取り組んで欲しいと思います。もう一つ言わせていただくと、市が掲げる「健幸都市」これに対して現場子ども達にどういうことが具体的にできるのか。子どもは基本的には元気で病気だとかあまり心配しなくてもいいのですが、将来における健康・幸福という意味も子どもに対する教えとしても、体験談として取り組んでもらえればありがたいと思います。いずれにしても、これら今お話出ました「見える化」と最初から言っていましたけど、いかにこういった中身をみんなで共有していけるかが、ポイントでございますのでしっかり伝える方法についてはいろんな方法で伝え、これまでにない事を含めて手立てしてほしいと、このように思います。

小林教育長

今、市長から特に明確に言っていただきましたが、そういう形でどれだけ多くの人達が一つの方向へ行けるのかというのが一番の鍵だと思います。そんなことで頑張ってもらいたい、そんなふうに改めて感じたところです。また一年ごとにしっかり見直し、この中から5年ぐらいを見通した中で、必要な事項はほぼ網羅されているとは思いますが、更に新しい課題も出てきたような時には、そういうもの取り込んで考えて参りたいと思っていますのでございます。

金子部長政策企画部長

いろんな委員さんから意見をいただき、ご質問もいただいて回答してまいりました。教育プランの内容につきまして皆さんからご評価いただいておりますので、5年間の教育支援プランを新たに策定ということでした承いただけますでしょうか。

委員了承

はい。

金子部長政策企画部長

ありがとうございました。それでは、ただ今お示したプランの案を消していただき、これで決定とさせていただきたいと思えます。

(3)教育委員会の主な政策課題の進捗状況について

西入教育次長 資料3、資料3-1 説明

教育委員会が課題とする8つのテーマのうち4つを総合教育会議において議論をして方向性を定めてきました。一つ目は学校給食運営方針では、教育委員会でも政策決定し関係する自治会連合会や小学校PTAの皆さんなどにも丁寧に説明をしようとしているところで、ほぼ予定どおりの取り組みができたと考えています。

二つ目が教育支援プランです。第1期を踏まえ、この度第二期ができたところです。三つ目 少子化による学校小規模化への対応では、総合教育会議の場で資料等をお示しする段階にない状況で、教育委員会の中で情報分析など検討をしているところです。新年度で改めて議論したいと考えています。資料で配った諏訪市と中野市など県内でも様々な取り組みがあり第三者による検討委員会をつくりさまざまな角度から議論いただく予定です。四つ目の教育委員会組織のあり方については、政策課題に迅速に対応する組織はどうあるべきかというものです。今後引き続き検討を重ねたいと考えております。

5番から8番も教育委員会の中で議論を進めている状況です。

新年度においてはこれらを参考に提案したいと思えます。

母袋市長

信州型コミュニティスクールの推進の現状を報告してください。

小井戸学校教育課長

市内36校ございますが、年度末の時点で18校導入しております。内訳は小学校12校、中学校6校です。県の目標まであと2年ありますので、来年・再来年とその中で100%を目指していきたいと思えます。

金子部長政策企画部長

他に何か質問・御意見ありますか。

ご報告ということで皆さんに協議いただいたことをごさいますけど政策課題の進捗状況の報告ということでご了解をいただければと思えます。それではご用意しま

した会議事項は、これで終わりでございますが、皆様から特別ございましたら何かございますか。

北沢教育委員

今、政策課題が一覧で出てるわけですけど、これからこういうものを課題解決に向けて取り組んでいく中で特に1番の給食とか、2番の教育支援プランこういうものについては直接子どもに関わる内容が多いと思いますけど、常に私たちが考えていかなければならないのは本当に子どもの為になっているのかどうかということ。そのことを大事に考えて課題について課題解決の方向に向かって考えていきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

金子部長政策企画部長

ご意見に対しいかがですか。

西入教育次長

はい、そのように進めてまいります。

金子部長政策企画部長

では、不登校の数字わかりましたので報告します。

小井戸学校教育課長

18ページの不登校児童・生徒の在籍率に関連した質問お答えします。最新の26年度数値を申し上げます。まず小学校では、全国値が0.39%。長野県が0.47%です。中学校は、全国値が2.76%、長野県は2.62%です。

金子部長政策企画部長

数字の報告ございましたご確認をください。他御意見ありませんでしょうか。事務局で何かございますか。

次第に書いてございますが、大綱及び教育支援プランは部長会議の中で必要な修正をして報告させていただきます。次回の部長会議3月24日ですからそれ以前に皆様が届くように直させてご確認をいただいた上で部長会議提出したいと思います。

本年度4回ということで最後の総合教育会議でございます。皆様御協力賜り短時間のうちに終了させていただきました。ありがとうございました。

これをもちまして第4回の総合教育会議を閉じさせていただきます。

ありがとうございました。